



市政懇談会を振り返って



細田 伸原 純夫

道路が機能しない場合のことも考えて、アクセス道路の複数ルート化や道路の補強等につきましても検討し、今後、お示ししてまいりたいと考えております。

コミュニティバスについて

コミュニティバスにつきましては、基幹路線バス、地区路線バス等、現段階でイメージする公共交通ネットワークについて説明いたしました。具体的には、具体的な提示がないため、意見が言えない」とのご指摘をいただきました。来年10月の実証運行に向けて、「半田市地域公共交通会議」で協議を進めてまいります。今年度末には基本計画を策定し、「公共交通市民懇談会」において具体的な路線をお示しします。

コミュニティバスを維持していくためには、市民の皆様にも毎月1回はご利用いただく必要があります。そのためには、市民の皆様と「お出かけしやすい」環境をつくるてまいります。

さる8月22日から26日まで、市内5会場において「新病院の建設候補地」、「コミュニティバス」をテーマに市政懇談会を実施いたしました。各会場とも多くの市民の皆様にご参加いただき、説明に対するご意見、ご提言をいただくことができました。

この場をお借りし、あらためて感謝申し上げます。

半田病院について

限られた時間での説明ではありませんでしたが、病院長自らが、医療職という責務から（病院職員を代表し）、今の半田病院の医療、現場の実情を訴えかけたことにより、早期建設の必要性は会場の皆様にご理解いただけたと実感しています。

さて、過去にさかのぼりますと、現半田病院建設時（昭和57年

開院）の経緯として、当時の竹内弘市長は、「建設地については、地盤や排水の問題に若干の不安があり、最適な地とは言えないが、将来を展望し市民のためになると確信し決定した。」また、第一次石油ショックによる物価高の影響を受け、市の財政状況が大変厳しいなか、「当然のことながら、行政は病院だけではなく、一般会計に及ぼす影響を十分配慮し、熟考を重ねての決断」であったと述べています。

現在、私たちが置かれている立場も同様であり、施設の老朽化や財政的な面からも速やかな事業進捗が求められるところであります。建設予定地である現職員駐車場については、水害等に対応するために高台への移転を求める意見もあります。しかし、重要な都市基盤のひとつであります病院は、

中心市街地との関連性や平常時の患者さんの利便性などの観点にも配慮が必要です。早期に建替えを図るためにも、東日本大震災や熊本地震の教訓を活かしながら、現職員駐車場で建設を進めてまいりたいと考えます。

今回の懇談会では、市民の皆様からいただいたご意見、ご質問の中に、「新病院そのものの安全は確保できても、災害発生時に病院へのアクセスが確保出来るのか」という意見もありました。自然災害がいつどこで起きるかを正確に予測することは困難であります。そのため、実際に災害が発生したときに、いかに情報を収集し道路状況を把握していくのか、そして、それをどう医療の提供につなげていくのかということは重要な視点であると考えます。

特に、発災後には、アクセス